

ウエスレヤン大学福祉大賞コンテスト 最優秀賞受賞！！

11月18日(日)、長崎県諫早市のウエスレヤン大学において第20回長崎ウエスレヤン大学福祉フェスティバル「福祉大賞コンテスト」が開催され、本校の地域活動部の野原楓花(2-6)さんと徳浜蘭(2-6)さんが九州各県からエントリーした6校のうち見事最優秀賞を勝ち取りました。

このコンテストは、同大学社会福祉学科主催によるもので「社会福祉教育の専門課程を持つ本学では、これまでに培ってきた福祉教育のノウハウ等を、人材育成に資したい(HPより)」という趣旨の元に発表時間7分のプレゼンテーションにより競うものです。

発表は「木製車いす制作プロジェクト」として「現在有る車いすのほとんどが金属製で、空港の保安検査で通過できず、車いすを利用する乗客から負担であるとの声から、木製車いすの必要性が高まってきた」ことを受け「明るく、楽しい福祉」をテーマに据えて企画を進めてきたとのことでした。

試合後の感想を、野原さんは「昨年第2位の雪辱を果たすために挑んだ。観客の良い反応が感じられたので『これはいける！！』と思った」徳浜さんは「結果が素直に嬉しかった。系列の実習と部活の両立が厳しかったが(取組みを)続けてきて良かった」と試合を振り返りながら語ってくれました。

二人は総合学科福祉系列で学ぶ生徒で、次の目標について徳浜さんは「将来の目標は看護師になること。この取り組みをとおして障害や社会的弱者のことについて改めて深く考えることができた」とあり、野原さんは「来年は是非完成品を掲げて再度エントリーしたい。そして、東京オリンピックまでには(木製車いすを)完全な形にしたい」と二人とも目を輝かせて将来の夢について熱く話してくれました。

担当した顧問の四方俊晴先生から、当日の発表の様子を「感情がこもっており、発声や表情のメリハリがはっきりしていた。(勝因は)圧倒的プレゼンの技術だった。」とあり、手放して喜びを表すとともに「(二人には)もっと大きな大会で発表させたい」と今後についての抱負がありました。

師弟同行、啐啄同機、発表までの2週間は毎日午後8時まで特訓の日々、夜が早くなった季節に校舎の一角に響く練習の声とスライドの明かりを私もたびたび目にすることがありました。沖水には心から福祉を愛する生徒と、それを支える情熱的な先生がいるのです。

